

授業科目名	看護過程論演習	担当教員	講師 宮本まゆみ 他		
開講年次及び学期	2年前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	演習	時間数	30	単位数	1
授業の目的（概要）					
<p>看護は実践の科学である。看護実践が科学的であるとは、判断の根拠や実践の根拠が明確で理にかなっているということ、対象者の個別の条件やニーズに対応していることを意味する。したがって科学的な看護を実践するためには、看護学独自の視点と系統的な思考過程に基づく方法論を学ぶ必要がある。本科目では、問題解決の思考過程を基盤として、収集した情報を科学的根拠にアセスメントし、対象に必要な援助を見極め、提供するための手段・方法論について学習する。</p>					
学修成果（到達目標）					
<ol style="list-style-type: none"> 1 看護過程を構成する要素とそのプロセスが理解できる。 2 事例をもとに、看護実践で看護過程を用いることの意義について理解できる。 3 問題解決過程や論理的思考といった看護過程の基盤となる考え方について理解できる。 4 アセスメント、看護問題の明確化、看護計画立案、実施、評価といった看護過程の各段階における基本的な考え方が理解できる。 					
キーワード					
看護過程、問題解決過程、論理的思考、情報収集、アセスメント、問題の明確化、計画、実施、評価、全体像、関連図					
授業の進め方					
Webexによるライブ講義およびオンデマンド型講義を併用して実施する。 個人ワーク、グループワーク、発表					
成績評価の方法（合否基準）					
授業への参加度（リフレクションシート、発表）、個人ワーク課題の総得点を100点満点に換算したうち60点以上を合格とする。					
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材					
<p>【教科書】 秋葉公子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版、ニューヴェルヒロカワ 高橋照子他：看護学テキストNICE 看護学原論 改訂第2版、南江堂（1年次購入済） 茂野香おる他：系統看護講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I、医学書院（1年次購入済）</p> <p>【参考書】 黒田裕子：しっかり身につく看護過程 第1版、照林社、2012 任和子：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド 第2版、照林社、2015 古橋洋子：はじめて学ぶ看護過程、医学書院、2017</p>					
オフィスアワー					
宮本まゆみ(基礎看護学講座) 日程を調整しますので、メールで連絡をください。 E-mail: mmiyamot@med.shimane-u.ac.jp					

モデル・コア・カリキュラムとの関連

C-1 看護学に基づいた基本的な考え方

C-1-4) 看護過程

ねらい：

看護過程の一連の流れについて知識として理解し、実践に活用するための方法を学ぶ。

学修目標：

- ① 看護過程とは何かについて説明できる。
- ② 対象理解のための情報収集について説明できる。
- ③ 収集した情報を科学的根拠に基づいてアセスメントする方法を説明できる。
- ④ 対象者のより良い健康状態を目指すために必要な専門知識の活用を説明できる。
- ⑤ 看護ニーズを明確化し、優先順位を決定する方法を説明できる。
- ⑥ 看護目標を設定し、具体的に計画立案・実施する方法を説明できる。
- ⑦ 実施した看護を評価する方法を説明できる。

D-1 看護過程展開の基本

D-1-2) 多面的なアセスメントと対象者の経験や望み（意向）に沿ったニーズ把握

ねらい：

対象者の多様な情報（生活者としての側面、生物学的に共通する身体的・精神的な側面、環境との関係の側面、成長・発達側の側面）を収集し、看護の視点から統合して対象者の経験や望み（意向）を共有しながらアセスメントする方法を学ぶ。

学修目標：

- ① 対象者の状況に応じて看護に必要な情報を収集できる。
- ② 得られた情報を系統的・継続的に整理し、アセスメントできる。
- ③ アセスメントに基づき対象者の全体像を描くことができる。
- ④ 対象者（状況に応じて対象者と家族）の経験してきたことや望み（意向）を共有しニーズの把握につなげることができる。
- ⑤ 全体像を描きながら対象者のニーズを見いだすとともに優先順位を決定できる。

D-1-3) 計画立案・実施

ねらい：

アセスメントに基づく個別性のある看護計画の立案と、計画に基づいた看護実践の方法を学ぶ。

学修目標：

- ① 看護の視点から見いだされた対象者のニーズに対応する目標を示すことができる。
- ② 目標を遂げるための要件を示し、看護計画を立案できる。
- ③ 目標・要件に応じた評価日を設定して示すことができる。
- ④ 基本的な看護技術を対象者のニーズに合わせて個別の看護実践に応用できる。
- ⑤ 対象者がより良い方法を選択する過程を支えることができる。
- ⑥ 対象者（状況に応じて対象者と家族）の経験や望み（意向）、強み（ストレングス）、ウェルネスを治療方法の選択や生活と関連付けて考えることができる。

D-1-4) 実施した看護の評価

ねらい：

看護過程全体を振り返ることによる、実施した看護の成果に対する評価を学ぶ。

学修目標：

- ① 実施した看護を評価する意義を理解できる。
- ② 実施した看護を評価できる。
- ③ 評価の基準に基づき、目標の達成状況を確実に評価できる。
- ④ 評価に基づき、看護計画を修正できる。

授業計画

回	日程	時間	場所	実施方式	テーマ	授業内容	担当者
1	4月8日		N11		看護過程とは	看護過程の5つの要素、 看護過程を展開する際に基盤となる考え方、問題解決過程	宮本・福岡 坂根・森脇
2	5月27日	13:00～ 14:40	N12	オンデマンド + Webex	情報収集	講義: 対象を知り看護していくうえで必要な情報 個人ワーク: 模擬患者事例のデータ整理	宮本・坂根 森脇
3	6月3日	13:00～ 14:40	N12	オンデマンド + Webex	アセスメント(1)	講義: アセスメントとは 個人ワーク: 模擬患者事例のアセスメント	宮本・坂根
4	6月10日	13:00～ 16:35	N12	Webex	アセスメント(2)	グループワーク: ヘンダーソンの枠組みでアセスメント ・アセスメントの結論を項目ごとに文章化する	宮本・坂根
5							
6	6月17日	13:00～ 16:35	N12	Webex	アセスメント(3)	発表: アセスメント内容の発表(項目ごと) ・データの解釈や推察について根拠をもとに説明する	宮本・津本 福岡・坂根
7							
8	6月24日	13:00～ 14:40	N12	オンデマンド + Webex	全体像の把握(1)	講義: 対象者の全体像把握と関連図について 個人ワーク: 項目ごとの関連性を確認し、全体像として統合する	宮本・坂根
9	7月1日	13:00～ 16:35	N12	Webex	全体像の把握(2)	グループワーク: 対象者の全体像把握と関連図作成	宮本・坂根
10						発表: 関連図と全体像の発表、アセスメントの見直し	
11	7月8日	13:00～ 14:40	N12	オンデマンド + Webex	看護問題の抽出 計画立案(1)	講義: 看護問題とは、看護計画の立案について 個人ワーク: 対象に合った計画を立案する	宮本・坂根
12	7月15日	13:00～ 16:35	N12	Webex	計画立案(2)	グループワーク: 対象に合った介入方法	宮本・津本 福岡・坂根
13						発表: 計画立案の発表	
14	7月22日	13:00～ 14:40	N12	オンデマンド + Webex	実施・記録・評価・サマリ 基礎看護学実習Ⅱ に向けて	講義: 実施記録の書き方、評価の目的、 実践内容のフィードバック、看護サマリの書き方 基礎看護学実習Ⅱに向けての課題提示	宮本・坂根

備考